様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 12 日現在

機関番号：32710
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2009～2012
課題番号：21520227
研究課題名（和文）　和歌・仮名散文を中心とする散佚写本の復元的研究

研究課題名（英文）　Studies on restoration of the lost manuscripts of WAKA literature and KANA Prose

研究代表者
久保木　秀夫（KUBOKI HIDEO）
鶴見大学・文学部・准教授
研究者番号：50311163

研究成果の概要（和文）：
本研究は、和歌及び中古仮名散文に関する散佚写本の復元を目指したものである。うち(1)万治四年禁裏焼失本については、その復元に資する現存古典籍の指摘や、周辺の蔵書の性格・伝来の一端を明らかにし得た。(2)散佚文学作品については、『歌苑抄』や足利義教日次家集といった散佚歌集の研究を行った。(3)その他の重要散佚写本については、特に伊勢物語や二十巻本類聚歌合の伝本・本文研究の徹底的な再検討の端緒を開いた。

研究成果の概要（英文）：
This research aims at restoration of the lost manuscripts. As a result, I investigated restoration of Collection of the Emperor which burned in 1661. Moreover, I succeeded also in partial restoration of the lost Waka literature. Furthermore, I also investigated other manuscripts. For example, it is about Kokin-syu, Tales of Ise, and Nijikkan-bon Ruiju Utaawase, and more.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１０年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１１年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１２年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：日本文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：散逸写本・中古中世和歌・中古仮名散文・古典籍・古筆切・禁裏文庫・冷泉家

１．研究開始当初の背景

現存する日本古典文学作品の伝本が、かつて存在したうちのごく一部に過ぎないことは言うまでもない。また作品によっては、すべての伝本が失われてしまった場合もあって、それらは散佚作品となる。そうした散佚伝本のうち特に写本に関して言えば、いまだ世上に伝存していた頃に諸文献で言及されたり、書籍目録に記載されたり、本文校合に用いられたりして、確かに実在していたという徴証を得られる場合も相応にある。また古筆切として部分的に現存している場合があることも周知のとおりで、研究代表者もこれまでに科学研究費補助金を三度取得し、散佚歌集に特化する形で復元的研究を行ってきた。その推進のためこれまで 10 年以上にわたり、関連する古筆切・古典籍・書籍目録・諸文献中の佚文などを徹底的に調査研究し

てきたその過程において想到したのは、散佚作品のみならず、現存作品に関しても、多数の重要写本が散佚してしまっていること、しかしながら一部については、古筆切や佚文を集成したり、とある現存伝本を散佚写本の散佚以前の転写本と論証したりすることによって、実は復元できる場合が少なからずあることだった。具体的には、例えば万治四年（1661）禁裏火災に際して焼失した禁裏文庫本のうちの、和歌及び仮名散文については、宮内庁書陵部御所本の中などから、焼失以前の転写本を発掘することが可能なのである。そこで代表者がこれまでに推進してきた散佚歌集の復元的研究に加え、万治四年禁裏焼失本、及び関連・類似するその他の散佚写本の復元的研究を総合的に実施し、日本中古中世文学の書誌学・文献学的研究のさらなる進展を目指すために計画したのが本研究である。

２．研究の目的

本研究に言う「散佚写本」とは、かつて実在していながらも、天災人災さまざまな理由によって世上から失われてしまった写本のことである。本研究は、主に中世までの和歌作品、及び作り物語・歴史物語などの仮名散文作品に関する散佚写本のうち、特に重要と認められるものを諸資料によって復元し、資料的価値や学術的意義を明らかにすることを目的としたものである。具体的には、研究代表者が近年重点的に行っている研究を踏まえて、⑴万治四年（1661）禁裏焼失本、⑵散佚文学作品、⑶その他の重要散佚写本、という三つの小テーマを設定しつつ、それぞれについての復元的研究を行い、日本古典文学研究のさらなる進展を促したいと考えている。

⑴万治四年禁裏焼失本について

万治四年禁裏焼失本の焼失以前の転写本が、実は書陵部御所本の中には大量に含まれているようであり、代表者は私家集と仮名散文のそれぞれ一部について現存を指摘している。しかしそのほか歌合・定数歌・歌論歌学書などの多数の御所本についても、やはり焼失以前の転写本たる可能性が高いと論述できる見通しが立っている。そこで研究開始後は、御所本及び全国各地に伝存する関連伝本の実地調査、及び複写物に基づく内容調査を通じて、焼失以前の転写本を可能な限り洗い出すことをまず目指したい。と同時に関連する奥書・識語・書籍目録・古記録などに基づきながら、禁裏文庫の形成過程や利用状況、さらには文学・文化史上果たした役割までをも考察したい。

⑵散佚文学作品について

研究代表者がこれまでに調査してきた、古筆切をはじめとする散佚歌集関連資料の中には、学界未知にして研究代表者も未検討の資料がなお多数含まれている。そこで古筆切など、全国各地に伝わる関連資料のさらなる発掘を心掛けながら、散佚作品に関する復元的研究をも引き続き行い、本研究の成果をより豊かにするための一助としたい。

⑶その他の重要散佚写本について

研究代表者のこれまでの研究によって、万治四年禁裏焼失本や散佚文学作品に関係するもの以外でも、例えば土佐日記や栄花物語などに関するいくつかの重要散佚写本の存在に気づき得ている。また上記⑴⑵の推進によって、派生的に研究が必要となってくる重要散佚写本もあろう。現時点で予想しているのは、金沢文庫・足利将軍家・近衛家・冷泉家などの各蔵書に関わる散佚写本の問題である。それらについても本研究の視界に収め、⑴⑵の問題と直接間接に関わらせながら、それぞれの資料的価値や学術的意義などを明らかにしていきたい。

３．研究の方法

⑴万治四年禁裏焼失本については、調査対象とする御所本をまず形態的特徴などによって絞り込み、実地調査や複写物の作成を行って書誌学・文献学的研究を進める。結果、焼失以前の転写本たる可能性の高いことが確認できた場合には、さらに諸資料を集めて総合的に考察し、各御所本・各作品、あるいは禁裏文庫全体に関わる諸問題を明らかにしていく。

⑵散佚文学作品については、これまでに収集してきた膨大な量の関連古筆資料のみならず、さらなる新出資料の所在調査・実地調査やデジタル撮影などを行い、書誌学・文献学的研究を進め、資料的価値・学術的意義を明らかにしていく。

⑶その他の重要散佚写本については、土佐日記や栄花物語などに関する散佚写本の調査研究、及び関連伝本の翻刻などを進める。また金沢文庫や足利将軍家の蔵書などをはじめとするコレクションについても視野に収め、必要に応じて積極的に言及していく。

以上のいずれに関しても、研究成果が得られた場合は、学会発表、論文化などの形で、逐次学界に報告していく。

４．研究成果

4 年間にわたり、犬山城白帝文庫・金沢市立玉川図書館・京都文化博物館・宮内庁書陵部・神戸市立中央図書館・神戸市文書館・四天王寺大学図書館恩頼堂文庫・住吉大社・石水博物館・天理大学附属天理図書館・東海大学附属図書館桃園文庫・西尾市岩瀬文庫・富山市立図書館山田孝雄文庫・鍋島報效会・ノートルダム清心女子大学図書館・蓬左文庫・宝島寺・湯木美術館などにおいて古典籍・古筆切の実地調査を行い、散佚写本に関する多

数の重要資料を見出した。またその過程で、新出・学界未知の古典籍・古筆手鑑・古筆切を発見することもできた。

結果、(1)万治四年禁裏焼失本については、焼失以前の転写本であると推定していた宮内庁書陵部御所本の性格をさらに明らかにすることができた。すなわち焼失以前の転写本のみならず、焼失後に補充された伝本もある程度含まれているようであり、それによってこれまで疑問に思われていた、書誌情報の齟齬の説明がつきそうである。それらのいわば補充伝本については、今後より具体的に指摘・分析していくことにより、現存する御所本の形成過程をさらに具体的に辿っていくことが可能となるであろう。また禁裏文庫本と近衛家陽明文庫本との関係性や、御所本と冷泉家本との関係性などについてもその一端を解明し得た。うち禁裏と近衛家との間では、所蔵する典籍を相互に書写し合うことがあったようである。一方、冷泉本に関しては、現存する御所本の中に、今日散佚してしまっている冷泉家本の忠実な転写本が多数含まれていることを明らかにし得たので、和歌文学会関西例会で口頭発表し、その後論文化した。さらにそこから派生して、『三十六人歌合』御所本が冷泉家旧蔵の定家真筆本の極めて忠実な模本であること、かつその書写内容に定家の書写態度や対三十六歌仙観、あるいは『三十六人歌合』そのものの本文についてなど、種々の問題が含まれていることも明らかとなったので、同様に論文化した。そのほか『本朝書籍目録』の伝本調査と記載内容の分析によって、同目録と中原氏との密接な関係性、及び鎌倉時代における禁裏文庫本との繋がりを垣間見ることができた。この問題については中世文学会大会シンポジウムにおいて報告し、その後論文化した。

(2)については、『如意宝集』をはじめとする散佚歌集に関わる多数の新出資料を発見したので、現段階で特に学術的価値が高いと判断された、伝西行及び寂蓮筆『歌苑抄』(俊恵撰の平安時代末期散佚私撰集）断簡と、伝寂然筆大富切『具平親王集』断簡の新出の一葉、また堯孝筆の堯孝及び足利義教日次家集断簡などについて論文化した。ただし、これ以外にも公にする必要のある散佚歌集関連資料はなお数多いので、今後のさらなる課題としたい。なお散佚資料に関連して、さらに学界未紹介の中世科学書や、おそらくは学界未知の平安時代和歌説話を含む資料などをも見出し得た。そのほか『散佚歌集切集成増訂第二版』を作成した。同集成は、研究成果報告用ホームページにおいてPDFファイルを無償頒布中である。

(3)については、(2)における陽明文庫本や冷泉家本に加え、金沢文庫本や足利将軍家の蔵書に関する調査に取り組んだ。と同時に、『古今集』をはじめとする中古中世和歌や、『栄花物語』をはじめとする中古仮名散文に関する、先行研究の再検討と伝本調査とを実施した。うち『土佐日記』唯一の異本とされる伝冷泉為相筆本（の転写本）に関しては、翻刻を開始している。さらに『伊勢物語』及び二十巻本類聚歌合について、従来説の徹底的な見直しと、書誌・本文・成立・成長・伝来等々に関する徹底的な再検討を開始した。うち『伊勢物語』に関しては、奥書の解釈や錯簡の認定に問題のあった天理図書館蔵伝藤原為家筆本と、長大な奥書の解釈と本文的な正確の把握に問題のあった国立歴史民俗博物館蔵の大島本とについて、それぞれ再検討する論文を公にした。また二十巻本類聚歌合に関連する、陽明文庫蔵の伝藤原公任筆家集切などについて再考し、それを二十巻本成立過程解明に向けての布石とした。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計７件）

①久保木秀夫「『三十六人歌合』書陵部御所本をめぐって」（『国文鶴見』第 47 号、pp. 10-24、2013 年 3 月）

②久保木秀夫「『本朝書籍目録』再考」（『中世文学』第 57 号、pp. 25-33、2012 年 6 月）

③久保木秀夫「伝藤原公任筆歌集残簡と「廿巻本歌合巻の特殊な一群」―永延二年藤原実資後度歌合に関する古筆資料をめぐって―」(『和歌文学研究』第 104 号、pp. 15-24、2012 年 6 月）

④久保木秀夫「大富切補遺」（『鶴見日本文学会会報』第 69 号、pp. 1-2、2011 年 10 月）

⑤久保木秀夫『伊勢物語』天理図書館蔵伝為家筆本をめぐって（『汲古』第 60 号、pp. 44-48、2011 年 12 月）

⑥久保木秀夫「堯孝筆日次家集断簡」（『文学・語学』197 号、pp. 69-77、2010 年 7 月）

⑦久保木秀夫「万治四年禁裏焼失本復元の可能性―歌論歌学書・定数歌・歌会の場合―」（『武蔵野文学』第 57 号、pp.1-6、2009 年 12 月）

〔学会発表〕（計３件）

①久保木秀夫「永延二年藤原実資後度歌合に関する古筆資料をめぐって」（和歌文学会大会、2011 年 10 月 30 日、於龍谷大学）

②久保木秀夫「『本朝書籍目録』再考」（中世文学会 2011 年度春季大会シンポジウム、2011 年 6 月、於鶴見大学）

③久保木秀夫「書陵部御所本による冷泉家本の復元」（和歌文学会関西例会、2010 年 12 月 4 日、於大阪府立大学））

〔図書〕（計 4 件）

①久保木秀夫「『伊勢物語』大島本奥書再読」（田渕句美子・谷知子編『平安文学をいかに読み直すか』所収、pp10-37、2012 年※、笠間書院）

②久保木秀夫「『歌苑抄』続考―四天王寺大学図書館恩頼堂文庫蔵断簡類の検討―」（錦仁編『中世詩歌の本質と連関』所収、pp.307-327、2012 年 4 月、竹林舎）

③久保木秀夫「書陵部御所本による冷泉家本の復元」（前田雅之編『中世の学芸と古典注釈』所収、pp.10-32、2011 年 9 月、竹林舎）

④久保木秀夫「本文データベースの一問題点と異本研究の可能性―古今集の異本・異文を例として―」（秋山虔編『平安文学史論考』所収、pp.583-599、2009 年 12 月、武蔵野書院）

〔その他〕

ホームページ等

久保木秀夫研究室：
http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/kuboki_lab/top.htm

古筆切所収情報データベース
http://base1.nijl.ac.jp/~kohitu/

６．研究組織

(1)研究代表者

久保木　秀夫（KUBOKI HIDEO）
鶴見大学・文学部・准教授
研究者番号：50311163

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし